

第3編 準備書に関する審議経過

第1章 公告・縦覧の概要

準備書の公告・縦覧は以下に示す内容で行なった。準備書に対する住民等の意見の件数は21件であった。

表 1-1 準備書の公告・縦覧の概要

公告日	平成25年5月9日(木)
縦覧期間	平成25年5月9日(木)から6月10日(月)
縦覧場所	<ul style="list-style-type: none">・長野県環境部(環境政策課)・長野県諏訪地方事務所(環境課)・岡谷市役所(川岸支所、湊支所、長地支所)・諏訪市役所(生活環境課)・塩尻市役所(生活環境課)・下諏訪町役場(住民環境課)・辰野町役場(住民税務課)・湖周行政事務組合事務局(総務建設課)
意見募集期間	平成25年5月9日(木)から6月24日(月)
意見提出先	・湖周行政事務組合事務局
意見書の提出件数	21件

第2章 知事の意見及び事業者の見解

準備書に対する知事の意見及び事業者の見解は、以下に示すとおりである。

表 2-1 準備書に対する意見及び事業者の見解

知事の意見（原文）	湖周行政事務組合の見解
全般、事業計画	
1 対象事業が既存施設の更新であることも踏まえ、環境負荷のさらなる低減を図るよう努めること。	1 事業の実施にあたっては、環境負荷のさらなる低減を図るよう努めてまいります。
地形・地質	
2 現時点で想定される掘削場所、深度など造成計画を具体的に示すこと。また、計画地における地すべりの形態、土地の安定性に係る現況及び建設による安定性への影響について、施工前に十分にデータを集め、建物の配置や対策工等に適切に反映すること。	2 現時点で想定される掘削場所と深度を評価書で示します。 計画地における地すべりの形態、土地の安定性に係る現況及び建設による安定性への影響については、施工前に十分にデータを集め、建物の配置や対策工等に適切に反映するよう努めてまいります。
3 評価書において、準備書に示された地質構成表、断面図、地すべり面の位置図について矛盾がないように整合を図り、それに合わせて本文の記述を修正すること。	3 準備書で示した地質構成表、断面図、地すべり面の位置図について矛盾がないように整合を図り、本文の記述を修正します。
生態系	
4 国蝶であり一般的に認知度の高いオオムラサキを、生態系を特徴づける指標種に選定し、予測・評価を行うこと。	4 オオムラサキを指標種（典型種）とし、評価書で対応します。
景観	
5 フォトモンタージュによる予測・評価について、現時点で想定される外観等の条件により、実際に人が凝視する際の視野で行うなど、具体的に景観がイメージできるように実施すること。	5 外壁の色を変更したモンタージュを示したうえで、実際に人が見る視野を踏まえた評価を行います。

第3章 準備書の修正内容

準備書に対する環境保全上の見地からの意見を踏まえ、準備書の見直し及び修正を行い、その内容を評価書に反映させた。

準備書の修正内容は、以下に示すとおりである。

表 3-1 (1) 準備書の修正内容

項目	修正内容
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価書においては、調査、予測結果の丁寧な記載、図表の活用、環境要素ごとの特徴を踏まえた評価結果の表現など、より内容を分かりやすく記載した。 ・ 予測・評価の根拠を明確にするため、引用文献、参考文献はオリジナルの文献を用いるとともに、引用部分を明示するよう努めた。
大気質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬季の鉛直気温の調査結果について、特徴的な日（夜間から朝にかけて逆転層が現れた日）のグラフを、補足資料として追加した。
悪臭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生源条件の設定根拠として、「煙源諸元は、複数のメーカーヒアリングから、影響が最大となる条件を組み合わせることで設定した。」を追記した。
地形・地質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地質構成表と地質断面図を修正した。 ・ 「対象事業実施区域における地すべり地形の状況」をまとめるにあたり、事業計画に基づく現時点で想定される影響要因を考慮したうえで、定性的に地すべりの安定性について評価した。 ・ 土地造成に伴う影響予測・評価について、地すべりの主な誘因と考えられる降雨に対する環境保全措置（雨水排水の地下浸透抑制（低減化））を追加した。 ・ 定性的評価では、地すべりそのものは現時点において安定していると考えられるものの、新たな造成を考慮し、事後調査として周辺地盤の変状監視を行うとした。さらに、事業計画の環境保全対策の一環として、周辺地盤の変状監視を追加した。 ・ 対象事業実施区域及びその周辺における地すべり地形について、大規模ブロックと小規模ブロックに分けて、調査データを整理し、安定性を検証した。（安定性の評価は変わらない） ・ 工事（土地造成）による地すべりについて、地すべりの主な誘因と考えられる降雨と荷重に関し、事業計画に基づく定性的な予測を行ったほか、環境影響の低減を図るための環境保全措置として「事業実施区域での排水工整備により、雨水の地下浸透量を現況以上に抑制する」を追加した。
植物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地域の植生の自然性についてのまとめの文章を追記した。 ・ ギンランの予測結果として、生育環境の管理の必要性について追記した。 ・ ギンランの環境保全措置として、林床管理を実施することを追記した。

表 3-1(2) 準備書の修正内容

項目	修正内容
動物	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な夜間照明の採用について、環境保全措置の種類を「低減」から「最小化」に改めた。 ・動物相の予測結果について、騒音・振動の予測結果を引用しながら、文章を修正した。 ・動物相の環境保全措置として、騒音・振動と同様の保全措置の内容を追記した。 ・動物相の環境保全措置として、猛禽類について、事後調査において営巣が確認された場合の具体的な環境保全措置を記載した。 ・カモシカの予測結果として、馴れた個体の事故の可能性について、追記した。 ・環境保全措置として、作業員に対するカモシカ等の事故への配慮の周知を追記した。
生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・国蝶であり一般的に認知度の高いオオムラサキを、生態系を特徴づける指標種に選定し、予測・評価を行った。
景観	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁の色を変更したモンタージュを示したうえで、実際に人が見る視野を踏まえた評価を行った。
交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・調査範囲の選定理由を「本事業に係る発生交通量（工事関係車両や廃棄物運搬車両）の割合が高くなると想定される、県道樽川・岡谷線を対象とした。」に修正した。